

平成 29 年 9 月 22 日

中間市中央公民館自然再発見講座 推定年齢 800 年の大杉を神木とする修験の山蔵持山を訪ねて

秋雨前線の上下で日々変わる天気予報、前日の予報では曇り、胸をなでおろし当日を迎えました。早朝、コツコツと地面を叩く音で目が覚めました。「残念」と雨バージョンの詳細を詰めながら集合場所であるみやこ町の四季犀館に到着。しばらくし、中間市の市民講座の方々が来られ、双方で協議し蔵持山登山の中止を決定しました。講座の皆さんも納得して頂き、雨バージョンの一日が始まりました。

はじめに、みやこ町の歴史民俗博物館で木村係長より、みやこ町の地理や歴史に名を残した人物や古代から廃藩置県に至るまでみやこ町は政治の中心地であったことや蔵持山の自然の魅力と山伏の思想・暮らしなどについての説明を受けました。初めてみやこ町の文化に触れた人もいて、「みやこ町はこんなすごい歴史があったの」、「蔵持山の魅力を知って登ると一段と楽しくなるね、山は動かないので、来年、登ってはどうか」など蔵持山は勿論のこと、みやこ町を知る良い機会になりました。



昼食後は蔵持山の山伏が自然を大切に、里から頂上に至るまで少しづつ人工物を排除し、頂上付近には自然林を残したと言い伝えられているので、宮本さんより自然林についての講義があり、皆さん、原生林、自然林、人工林の用語が心に残ったのではないかと思います。



その後、みやこ町の英彦山の隣の山、鷹ノ巣山を源流とする祓川の上流を堰止めて建設している伊良原ダムと平成 3 年の台風により倒木した蔵持山の幹周り 5 m ほどの大スギ、ヒノキが展示されている平成筑豊鉄道の犀川駅を見学しました。皆さん、水が張られていないダムの周囲の田畑を圧倒する姿と蔵持山の山伏の自然への畏敬の念に感嘆していました。

更に、蔵持山の麓にある浄土真宗大谷派の念信寺に出向き、ご住職より山伏が保管していたと思われる掛け軸から読み取れる山伏の精神や生活について説明を受けて本日の行程を終了しました。最後に、野見山さんより本日の振り返りと次回の案内があり、解散しました。皆さん雨バージョンにも関わらず楽しんでくれましたので安心しました。(スタッフ：野見山、宮本、中村)

